

<b>学校教育目標</b>	社会で通用する基礎・基本を磨き、 よりよい自分、よりよい学校、よりよい社会を目指すとする生徒の育成
---------------	--

a ミッション 【地域・社会における本校の使命・存在意義】	地域が誇る学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～	a ミッション 【実現しようとする本校の将来像】	○オール因島南(園・小・中及び家庭、地域)で、連携・協働し、生徒を育む学校 ○学校・地域(ふるさと)を誇りに思い、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○常にスパイラル・アップを目指し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校
----------------------------------	---	-----------------------------	---

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	g 達成率	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価	l コメント	m 改善案
								イ	ロ	ハ			
育成する資質・能力 「高い志とチャレンジ精神」 「はげれ落ちない基礎・基本」	自分自身で、また、まわりと力を合わせて、「よりよい自分」、「よりよい学校」、「よりよい社会」を創り出そうとする 【育成する資質・能力】 「高い志とチャレンジ精神」	◎生徒会執行部の育成による意識とリーダー性の向上 ■各行事における生徒会の主体的な「場」の設定 ■生徒会各委員会の主体性の向上 ■生徒会執行部による学校力向上に向けた提案力の向上	「自分達の学校を自分達で更に良くしていく」としている生徒の割合 生徒会の各委員会の活動は、自分達の学校生活をよくすることに大きく貢献していると感じている生徒の割合	80%	77%	96%	B	「生徒会の各委員会の活動は、自分達の学校生活をよくすることに大きく貢献していると感じている。」 「みんなで何かに取り組む、やってみよう」と感じることがある。」生徒割合が80%を回っている。生徒会やリーダーの育成が進むように、担当者とともに2学期の学習発表会や合唱コンクールなどでリーダーの役割からも支える側からも充実させるように取り組む。			○	生徒自身がこの「学校評価表」をどう思うのか一度聞いてみたい気がする。 生徒会役員に学校の評価活動に意見が言えるような力がつくと素晴らしいですね。 アンケート結果が行動に結びつくよう指導をお願いします。 学習発表会、合唱コンクール等での成果を期待します。	生徒が主体的に参画する小中合同の教育活動を実施することで、リーダーの育成に繋げる。 学習発表会や合唱コンクール等の行事を通して、役割を明確にし、やりきらせることで自己有用感につなげる。
		○向上心・実行力の育成 ■「プラス・ワン」の日常的な・評価・励ましを通じた意識化の向上	「プラス・ワン」を達成できるように努力している生徒の割合	90%	82%	91%	B	「プラス・ワン」のクラス掲示やステップアップ記入により、日常から目的意識や実行力の育成につなげることができた。2年生のリーダーシップを促す取り組みをする。			○	地域を意識した教育活動ができています。新教育課程の先取りに！ 水害祭り等の参加により、意識が高まっているように思えます。	部活(新チーム)、学習発表会、合唱コンクールに向けたクラスワークづくりと話し合い活動を充実させる。 2学期も太鼓クラブ・吹奏楽部を中心に教職者や地域の祭等の行事に協力し、地域の活性化に貢献する。
	◎現状に満足することなく、常に向上心を持って、思いを実行に移そうとする生徒の育成	■地域や学校、集団への「貢献」を意識したボランティア活動の活性化 ■「『走る』学校文化」の更なる充実・「10分間走」への意識の向上・部活動の練習における「走る」練習の充実	地域や社会のために何かに役立つことをしようと思意識している生徒の割合 「10分間走」など、自分の目標を立て、意欲的に「走る」ことを意識して走っている生徒の割合	80%	77%	96%	B	1学期には特に地域を意識させる取り組みができたが8月に部活動との地域貢献活動や地域の祭り参加などの取り組みを実施した。また、2学期は地区別の地域貢献活動を計画している。単なる実践に終わらせず目的意識を持って取り組むようにする。 4月は体力測定に向けて計画的に10分間走を実施して全生徒が参加した。2学期は10月から実施し、中央道の大会に選抜チームを作って参加したり、地元駅伝大会に全校体制で参加するようにする。			○	地域を意識した教育活動ができています。新教育課程の先取りに！ 水害祭り等の参加により、意識が高まっているように思えます。 生徒の活動(部活動や地域貢献活動)が積極的にできていて(子どもの自己有用感や自覚につながる指導者の工夫や手立てが欲しい)	地区別の地域貢献活動を地域の方との十分な連携を図り、地域の要望に応える活動することで、生徒の有効性の向上につなげる。 駅伝の選抜チームを作り、中国中学校駅伝への出場を果たすことで、学校の「走る」文化が地域を元気にすることを目指す。 10分間走を10月から実施し、「持久力」の向上を図るとともに、いんのみ駅伝大会に全部活が参加することで、「走る」ことを学校の文化として高めていきたい。
	○「主体的に学ぶ」意欲を育てる授業づくりの推進	◎授業改善の推進 ■「学びに向かう意欲」を向上させるための授業の工夫を意識した授業改善の推進 ■「課題発見・解決学習」の単元開発・実践による授業改善の推進	「授業の課題について『なぜだろう』『やってみよう』と思う」生徒の割合	90%	71%	79%	C	6、7月に授業参観月間を実施したが、全員ができていないのが8月中にやりきる。研修を進めているが、不十分なことを経験し主体的に学習する深い学びになるように研修を継続し、授業の課題について「なぜだろう」「やってみよう」と思う生徒をもっと増やす。			○	「今日の課題設定は適切だったか」を生徒に評価させてもよいのではないかと思います。 生徒が興味を持ち、集中できるよう取組をお願いします。	各教科での単元開発を進めるとともに、一人一研究授業を実施することで授業力向上につなげる。 (授業公開や授業研究に向けた授業計画と指導案検討、授業参観月間の活用)
○「生きて働く知識・理解」の育成と「学びの土台づくり」の充実	◎基礎学力の定着に向けた指導の徹底 ■「学びのサイクル」の充実・発展(本時のめあての工夫、家庭学習の充実) ■「南中タイム(週末とめテスト)」の内容及び実施方法の見直しと改善	「できた」「わかった」と授業で感じている生徒の割合(全教科平均) 「南中タイムは自分の学習に役立っている」と答えている生徒の割合	85%	84%	99%	B	授業改善を進めているが、成果と課題を確認する。特に学力調査の結果を多面的に検証し、「できた」「わかった」を授業で感じている生徒をもっと増やす。 南中タイムは学びのサイクルに従って計画的に学習している生徒がいる反面、学習をせずに受け、再テストも十分機能していない生徒がいる。学び合いの態を設定し、試験科目を減らすなどして集中できる環境を整える。			○	「できた」「わかった」から「やりたい」「やってみよう」に向かう学びの姿勢が生まれてくるといいですね。 小学校や高等学校の教育活動を周知した教育活動が不可欠だと思います。	各学年で内容の優れた自学ノートを掲示し、家庭学習の意欲を高める。 ワークによる自学とドリル教材を用いた班ごとの教え合いによる学習内容の復習と読解力・考える力を育てるためにクイズを取り組ませる。(3年) 南中タイムとして1時間を実施する教科を3教科とすることで、教え合いの時間を確保し基本の定着を図る。	
学校に、規律と自律、安心感と充実感があり、生徒が、生き生きと学校生活を送ることができる	○生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	◎不登校の未然防止 不登校生徒への支援の充実 ■教育相談・家庭連携・関係機関等との連携の充実 ・SCとの教育相談委員会の充実 ・SWの活用による生活改善の推進 ■生徒理解・安心できる集団づくりの推進(アセス活用、面談、学級経営の充実)	中学校生活を要因とする新たな不登校生徒を出さない 現在不登校生徒の登校日数の増加(校内適応指導教室への登校も含む)	0人	0人	100%	A	昨年度、長期欠席であった12人のうち、今年度7月現在で30日以上欠席した生徒が5人である。昨年度長期欠席でなかった生徒で7月現在で20日以上欠席している生徒が1名いる。アセスの結果分析の研修が夏季休業中となったが、2学期以降の学級経営に生かして行く。 昨年度長期欠席12人の1学期の目標値(出席日数割合65.0)に対して、7月末の出席率46.7であり、達成率72%であった。生活が改善し登校できている生徒が5名いる。教育相談、家庭連携、集団づくりの推進・充実を進める。			○	不登校を一種の「学校ストライキ」という視点でみるとまた違った対応の発想が浮かんでくるかもしれませんね。 「長期欠席生徒」の課題を全校の課題としてとらえ、取組をなさされていることが分かりました。	不登校未然防止にむけ、ケース会議の場に具体策を協議し、日常の関わりを生かす。 別室登校を行っている生徒が、自身の生活を振り返るためのSTEP・UP(教育相談室ver)を活用する。(担任や他の先生との関わりを捕まへ、保護者に報告する際に活用する。)
	○自らを律するとともに、学校生活に充実感を見いだせる生徒の育成	◎生徒指導体制の改善 ■全教職員による指導の徹底、家庭連携の充実 ■充実感・達成感の向上(小中連携の推進、生徒主体の活動の充実) ■挨拶の活性化	「学校や社会のルールを守っている」と思っている生徒の割合 「みんなでも何かに取り組む、やってみよう」と感じることがある。」生徒の割合 学校でも地域においても「自分から積極的に挨拶をしている」生徒の割合	95%	90%	95%	B	生活委員会が「1分前着席」や「名札着用」の活動を行った時には、生活規律を意識した雰囲気がつくれた。生徒会の委員会活動と連動し、差別的な服装に焦点化した取組を計画的に実践していく。 体育大会では生徒たちの活躍が認められたものの、学年が上がるとともに、肯定的回答が低くなる結果となった。努力や苦勞が大きくなる分、承認欲求が高まったことが窺える。生徒へのフィードバックの在り方を工夫していく。 学級委員会による挨拶促進ポスター掲示の活動は実施したが、結果に反映していない。めざす挨拶の姿を全生徒・全教職員で共通理解した上で、生徒会の委員会活動と連動し、挨拶に焦点化した取組を計画的に実践していく。			○	入学式、卒業式、体育大会などの学校行事での生徒・教職員の活動の姿は素晴らしいと思います。 掲示物がすばらしく生徒・教職員の活動の様子がよく分かり、学年が向上しているのがうかがえます。 「自己肯定感」「将来の夢・希望・目標」が持てる取組を継続して行い、因島商中を卒業するとき「中学校の3年間は、よかった、楽しかった。」と充実感を味わわせ、次のステップに挑戦する意欲を持たせてください。	学校に置いてよい道具の置き場所の設定することで、学習環境の改善を図る。 お互いを認め、支え合うことのできる集団づくりを進める。 ・学級日誌を活用したクラスづくり ・班長の定期的な実施 めざす挨拶の姿を全生徒・全教職員で共通理解した上で、生徒会の委員会活動と連動し、挨拶に焦点化した取組を計画的に実践していく。

【自己評価 評価値】  
 A: 100 ≦ (目標達成) B: 80 ≦ (ほぼ達成) < 100  
 C: 60 ≦ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60